

論文タイトル:デュルバルマブによる自己免疫性脳炎を発症した小細胞肺癌の1例

著者名:大庭 優士 a 美園 俊祐 a 森田 薫 a 米 未紀子 b 田中 謙太郎 c 梶 博晃 a

a 鹿児島市立病院呼吸器内科

b 川内市医師会立市民病院呼吸器内科

c 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科呼吸器内科学

(2)要旨

症例は 72 歳, 男性. 進展型小細胞肺癌に対する一次治療としてカルボプラチン+エトポシド+デュルバルマブを投与したが, 1 コース終了後に構音障害, 左上肢の違和感が出現した. 精査の結果, デュルバルマブによる抗 Hu 抗体陽性自己免疫性脳炎と診断し, 発症早期に免疫抑制療法を行い, 症状は速やかに改善した. 免疫関連有害事象としての自己免疫性脳炎の頻度は高くないが, 適切な診断と治療により改善が期待されることから, 迅速な対応が必要である.

(3)キーワード, 短縮タイトル

キーワード:デュルバルマブ, 小細胞肺癌, 自己免疫性脳炎, 辺縁系脳炎, 免疫関連有害事象

Durvalumab, Small cell lung cancer, Autoimmune encephalitis, Limbic encephalitis, Immune-related adverse event

短縮タイトル:デュルバルマブによる自己免疫性脳炎の1例